

## 講 義

授業科目名	工業経済学	特 論	担当者 川端 望
授業のねらい・内容			
テーマ：もの造りのロジック			
内容			
<p>この講義では、工業企業の開発・生産活動を、現実の企業活動から乖離することなく、経済学的・経営学的にとらえるロジックについて学ぶ。企業・産業研究には方法上のトレード・オフがある。個別企業に対する実態調査によれば、ひとつひとつの指摘がリアリティを持つ一方で、そこに貫かれているロジックを認識することは容易ではない。他方で、経済学・経営学のロジックを具体的な企業に適用しようとする、論理的整合性はつきやすいものの、実態とかけ離れた空論になってしまうことが少なくない。この講義は、そのギャップを埋めるような研究方法を探り、その一つの手がかりとして「技術・生産管理論」(TOM)のテキストを用いる。テキストの内容を、産業調査や企業調査の実例によって補いながら講義を行う。</p> <p>したがってこの講義を受ける上で重要なことは、企業活動の具体的な姿への関心を持つことが第一である。ミクロ経済学、政治経済学、経営学のいずれかの基礎的な素養があることが望ましい。</p> <p>参加人数によって、講義形式、演習形式を使い分ける。</p> <p>講義は日本語で行う。テキストも日本語である。時々の課題図書には、日本語文献と英語文献を含む。レポートを提出する場合は、日本語か英語とする。したがって、日本語を聞き取ること、日本語と英語の両方を読めること、片方でレポートを書けることが、講義についていくためには必要である。</p> <p>数理的手法は用いない。テキストのロジックを理解し、そこから類推を行うこと、大量のケース・スタディを読み、類推、比較、抽象化などをしてその意味を考えることが中心となる。</p>			
テキスト・参考書			
<p>受講前に：藤本隆宏『能力構築競争』中公新書、2003年を読み、この内容に関心を持てるかどうかで受講するかどうかを考えるとよい。</p> <p>テキスト：藤本隆宏『生産マネジメント入門』日本経済新聞社、2001年。テキストに沿って講義と討論を行う。</p> <p>参考書：大量の参考文献を用いるので、その都度指示する。</p>			
成績評価の方法			
レポートと平常の成績による。5月末までに申し出た者に限り、履修放棄を認める。			
留意事項			